



# 大和市民活動推進補助金 公開選考会ニュース

2006年7月2日開催

発行：大和市民活動課・NPO法人玉川まちづくりハウス

## ■はじめに ～市民活動推進基金と 市民活動推進補助金制度について～ 市民活動課 船越さん

大和市は平成14年に「新しい公共を創造する市民活動推進条例」を制定しましたが、「新しい公共」は行政だけではなく、市民、市民団体、事業者等がみんなで知恵を出して合っ

てつくっていこうというものです。  
社会に貢献する市民活動を行っている市民、市民団体、事業者等を支援することを目的として市民活動推進基金はつくられました。特徴としては「マッチングギフト方式」という方式をとっていきまして、皆様からいただいた寄付金と同額を次年度に市から積み立て、2倍にして基金を増やしています。皆様の想いを2倍にして市民活動を支えるということです。この基金を基に補助金を制度化しましたが、この補助金は今回で3回目になります。補助金は、活動が始めるに当たっての「めばえ」（上限5万円）と、現在の活動を発展させていこうという「はぐくみ」（上限20万円）の2部門があり、団体でも個人でも応募できます。

市民活動推進基金の現在の残高は4,738,785円で、これを基に補助金を交付します。今日は「はぐくみ」に応募した4団体の事業を公開で選考することとなりますのでよろしくお願いいたします。



## ■補助金選考委員のあいさつ

平塚恵一補助金選考委員会委員長

選考会を始めるに当たって審査基準をご説明します。

- ①意欲：やる気、スピリッツ
  - ②使命、(ミッション)：新しい公共性がどれだけ感じられるか・社会貢献度
  - ③活動の広がり：事業の内容が先駆的か・創造性・連携の可能性
  - ④実現性：費用の妥当性・収支項目に不合理な点がないか、無理のない企画・予算立案か  
実施体制が整っているか、適正な会計処理か
  - ⑤発展性：次のステップが見えてくるかどうか
- 本日の4団体については、②③④の点を中心に審査します。公金として補助金が支出されるので細かくしっかり見ていきたいと思ひます。

## 渡辺精子委員

4件のプレゼンテーションを楽しみにしております。公平な立場でしっかり選考をしていきたいと考えています。

## 手塚明美委員

藤沢市民活動推進センターの指定管理者として管理運営をしている団体の理事をしています。本日は大和を元気にする活動を応援したいということで、そこを中心に選考したいと思ひます

## 益永律子委員

茅ヶ崎市民活動サポートセンターの指定管理者として管理運営をしていますNPO法人NPOサポートちがさきの益永です。茅ヶ崎も昨年からは補助金がスタートしましたが、資金的にもう少し援助されればステップアップできるなという団体の選考をさせていただきたいと思ひます。

## 坂内哲夫委員

大和市役所の市民経済部長という立場で選考委員となっています。大和市の先駆的な取り組みの筆頭ともいえるこの補助金制度です。3回目の選考会を経て、今後もぜひ多くの応募があるといいと思ひます。

## ■応募者による企画内容の発表

### 1. パソコンボランティアからパソコン講師（インストラクター）へ！<sup>が</sup>い障害者（パソコン笑福会学習者）ステップアップ講習会のためのパソコン講師（インストラクター）・指導者養成講座【パソコン・コミュニケーション・アシスト ピコピコ：渡辺さん】

まず前年度の活動の概要を説明します。昨年度大和市の補助金「めばえ」事業として市内の知的障害者施設<sup>が</sup>い3部門406名のうち158名にアンケートをとり、その中でパソコン学習をしたいという福田作業所、福田の里、ワークステーション菜の花の3施設を毎週1回訪問し「パソコン笑福会」という学習会をしました。さまざまな障害のある方がいるのでITを利用する上で障害<sup>が</sup>いに応じた補助機器やソフトを利用し、利用支援・自立をサポートする活動を行いました。3施設の訪問回数は104回、利用者は累計で549名、1施設あたり平均7名の利用者となっています。初回からの方は1回15分で通算26時間学習されたということになります。これまで知的障害<sup>が</sup>いのある方のパソコン学習の機会はなかなかなかったのですが、この学習を通じて無限の力を私たちは見だし、障害を持っていてもできるということを知りたいという新たな目標が見えてきました。IT利用・活用支援ということで利用格差が生じている人々のために社会参加、自立就労支援に向けた機会の創出をしていきたいという目標が固まりました。しかし「笑福会」は1回15分で時間を拡充したいが講師が2人しかいない、現場の活動に来てくれる人もなかなか増えない、知的障害<sup>が</sup>いの方にあつたオリジナルテキストも作成できないといった問題があつて、NECの市民ITサポーター養成講座で学び、ここでボランティアの方が8名増えました。しかしパソコンボランティアのスキルはまちまちで指導方法も統一できていないというところで、これから就労支援に向けてパソコンボランティアの問題点が見えてきました。障害者のためのスキルアップ講座をやるためにはこの問題を改善したいと思ひ事業計画を固めました。

事業計画の概要は、去年1年目はITの普及訪問事業、今年はボランティアを障害者のためのパソコン講師インストラクターにするため指導者の養成講座を開催し、来年度以降障害者のIT講座の講師として増やしていきたいという想いではぐくみ事業に応募しました

学習時間15分を1時間に増やすためには現在

の2名の講師から人数を増やさなければならないのですが、はぐくみ事業における養成講座によって現在登録している16名のボランティアが講師となれば、受講者も広がるのではないかとこの計画です。

はぐくみ事業の目的は障害のある方の社会参加と就労機会の創出のために障害者対象のパソコン講習会で指導者・補助員として参加し、学習の進行、IT機器の操作など指導ができる人材を育成したいということです。

事業の内容は、統一された技術と指導方法を学んでいただくために、約60時間10日間の養成講座を行うということで、カリキュラムは3つに分かれていて、①パソコンの基本知識を基礎から応用までみっちり学ぶ講座が6時間×7日、②講師としてのスキルを学ぶ講座が6時間×2日、③障害特性に応じた対応の仕方、支援の仕方を学ぶ講座が6時間×1日となっています。

スケジュールは9月の2週目くらいから来年2月までと考えており、10日間終了した方には修了証を発行し、19年度の障害者対象の講習会で講師として活躍していただきたいと考えています。

収支予算に関しましてははぐくみの補助金20万円と、残りの78万円は他の助成金等を受けながら、受講者からの負担金も受け、行いたいと思います。

テーマは社会参加と自立就労ということでITを利用した支援を行い、学習機会の創出と自立就労機会の創出を今後も続けていきたいと思ひます。アルファベットの入力や漢字の変換等も正しく行えない方がいらっしゃるのて、ITを利用した特別支援協力のかたちでパソコンのスキルを上げる努力を行っています。

ボランティアのスキルを上げていくことで、他の作業施設にいらっしゃる方もサポートしていきたいと思ひています。シニア層、主婦層、中途障害の方もボランティアに加わっていますのでそういった方の地域でのやりがいのある活動につなげていきたいです。

## ●質疑応答

・受講者の負担はどれくらいか？（平塚）

→20名で10日間、12,000円になる。オリジナルテキストの料金も含んでいる。

・修了証はどこが発行するものか？（平塚）

→ピコピコが発行するものなのでオリジナルの認定書である。

・18年度の支出の部分で講師料48万となっているが講師は決まっているのか（渡辺）

→パソコン技能に関してはパソコンスクール何社かに当たっているが交渉中、カリキュラムを分担するかスクールに一括するかも決まっていない。また会場の予約もまだ出来ていない。

・講師が決まっていなければ48万円は希望予算ということか？（渡辺）

→一般的な価格を参考に設定した。

・収入に関して、助成金を他に受けたいということだがめどはついているのか？（手塚）

→6月末の締め切りのものに応募して審査待ちの状態。他にも何件かあるので随時応募したい。

・1つの事業で助成金をいくつも取るのは難しい。このはぐくみの助成金が取れなかった場合どうするかなど考えているか？（手塚）

→他の助成金にも応募し、時期がずれても必ず実行する。

・団体の保有パソコンは何台か？リユースのパソコン使用は？会場の確保はどうなっているか？（益永）

→パソコンに関しては団体としてリユースパソコンが3台、メンバーの持ち寄りが2台。今回は20台必要なので不足分は他市で同じ活動をしている団体から借りることになっている。リユースパソコンの応募もしていこうと考えている。設備購入の助成金も応募していく。会場は生涯学習センターか保健福祉センターを考えている。保健福祉センターは無料なので、なるべくそちらを利用したいが、取れなければ生涯学習センター（有料）を予約しようと考えている。

・前年度の活動に刺激を受けて今年度の障害者の受講人数は増えているのか？（坂内）

→2名で活動すると20名が限界だが、他の施設の方や家族の方からももっとやってほしいという声があるので、もっと講師が増えれば参加者も拡大すると見込んでいる。それを実現するために応募している。



## 2. 食事が楽しくなる Recipe 集2【食のアトリエ：竹川・小宮山さん】

応募の内容はブックレットの作成ですが、まず私たちの活動目的からお話しします。活動目的は「未来へつなぐ食を考える人を広げる」ということで、①「安心・安全」な食を未来へつなげるにはどうしたらいいか②ほんものの味を食卓に伝える：地域の文化、いただきますの心③未来へつなぐ消費と農業を知る：消費するためには生産を考えなければいけないのではないかとという3点の要素があります。主な活動は、料理会で料理の実習だけでなく地域の交流の場となるよう心がけています。子育て中の保護者も参加できるよう保育付きにしています。食材のお話、実習、ランチタイムという内容です。その中でお互いの生活の知恵を伝え合い、今後の活動の企画などにつなげていきます。

昨年度はめばえの助成で講演会を実施しました。講演会に向けてアンケートをとりましたが、その結果今年度からは地域に根ざした活動がしたいという想いを強くしました。活動内容として①大和市の農業を知る②地場野菜を使った料理のレシピ作り③生活にすぐ生かせる“食の知恵”を伝えるということを考えました。まず農業を知るということは農家や直売場、農政課の聞き取りをしようと思います。②については収穫体験、料理会の実施、③については栄養バランスや食卓のデザインなどを含んだブックレットで伝えるのはどうかと考えました。栄養についてはガイドラインがたくさん出ていますが、2月4日の講演会で講師の大村直己氏の「一汁二菜」ということがすごく役立ち、料理をするのが楽しくなったという参加者の声があり、日々の生活に活かせるものを作成することが大切だと感じました。農家の方、栄養士、子育て中の保護者、子どもに関わる方、農政課や児童育成課の方などに直接会って話をお聞きし、食に関する学習会に参加して、子どもの生きる力をはぐくむ食のニーズを探っていこうと思います。

昨年めばえのプレゼンテーションでアドバイスをいただいて「食事が楽しくなる Recipe 集1」を作成しました。作成したことが活動を広くするきっかけとなりま

した。講演会に向けて0～9歳の保護者にアンケートを実施し悩みを聞いたところメニューがワンパターン、栄養のバランスが取れているかわからない、「ばかり食べ」でよく噛まない、子どもが食事に関心がない、朝食を食べないなどの声が聞かれました。これらに答えるためにもすぐに活かせる「食事が楽しくなる Recipe 集2」の作成をすることにしました。内容は地場野菜のレシピ、すぐに頭に描ける栄養バランス、食卓のデザイン（いただきますの心・旬）、地産地消で大和市の農業を身近な形で伝えていけたらと思います。

レシピ作成の具体化には、①まず実行委員を立ち上げ、委員が市民に実行委員を募って作成に当たりたい。②大和市内の環境保全型の農業を知り、直売店や生産、なかなか成功例がないといわれる都市型農業の現状などと今後の展望を聞き取り調査する。以前講演の際に農政課と話をする機会があり、農家の方は市民にもっと農業のことを知ってほしいと考えていることがわかりました。それが今回の応募のきっかけともなりました。③大和市の農政課、JAさがみ、県の農政課、民間団体と大和市児童育成課、医療健康課などの栄養士や保育士に話を聞いたり協力をお願いしたい。児童育成課、医療健康課の方とは7月31日に第1回目の会合を持つことになっています。④すぐに役立つアドバイスとなるか、モニター期間を考えて作成したいと考えています。去年の活動を通して、今子育て中の方に直接聞いてみないと具体的なニーズはわからないと実感したからです。⑤多様なつながりと試みとして料理会を実施します。農政課の協力を得て8月23日に実施することが決まっています。⑥食に関する学習会に参加します。以上6点を計画しています。地産地消を考え食に関するニーズ性の高い内容のレシピ集を子育て中の保護者、これから親となる大人、市民に配布し、食を考える輪を拡げ、大和市の子どもがきちんと生活できる環境につなげたいと思っています。

## ●質疑応答

・昨年7月に国が食育基本法を定め、内閣府の食育推進会議が食育推進基本計画をつくり、県・市レベルで食育推進計画を徐々に展開している。そこで農林水産省の補助事業として出版社とともに「食と農の勉強会」というものを推進している。その中で講師が80名近く登録されており、無料で派遣されるシステムになっている。その方々を呼んで講習会や研修会をしたらどうか。今回は補助金事業への応募だが協働事業へステップアップしていけるよう期待している。(平塚)

→わかりました。ありがとうございます。

・ブックレット作成費で、支出のほうでは印刷製本代が156,000円で予算のほとんどがここに使われているようだがブックレットを有料にするという考えはあるか？(渡辺)

→大和市の食育プランではガイドラインはつくるが大和市独自のガイドブックがない。ぜひブックレットを補助金で形あるものにして、児童育成課や医療健康課を通じて保護者に配布できたらよいと考えている。そのような想いで製本は業者に頼み、きちんと使えるものにしたいと考えている。

・市との協働に向けて進めていけたらよいと思う。料理会は現場を持つという意味で重要だと思うが会員が昨年度から1名しか増えていない。団体を地域に根付かせるというためには会員拡大にも力を注いだ方がよい。活動の啓発も込めレシピ集2はしっかりしたものをつくってがんばっていただきたい。(手塚)

→ブックレット作成のプロジェクトに市民を募ってというところで、その点を改善したいと思っている。

・昨年度の報告で、農業を知るきっかけとなったというところで今回の事業の申請となってステップアップされていると感じた。子育て中の方にブックレットの配布や調査聞き取りするということだが、どういう方にどのような手段で行うのか？チラシの配布についてはどうか？(益永)

→聞き取り調査は農家の方、農政課、JAさがみ、保育士や栄養士を考えている。プロジェクトに子育て中の方が参加し、モニターとなってくれるといい。興味のない方にもブックレットを使ってほしいので無作為のモニターもできるといい。チラシは児童育成課で「もぐもぐ教室」「ぱくぱく教室」というのがあるが、そこで配布してもらおう。子育て支援センターに置いてもらう。母親・父親教室、1歳半・3歳児検診、野菜の直売場、行政の窓口、歯科医院、ボランティアセンターなども考えている。

・今年の夏の行事のチラシを見て、収穫体験もいいが種まきの段階からの企画なども考えているか？(坂内)

→本当は最初の段階からできればよいので、その意見を活かして次回考えたい。実際動いてみて見えたり広がることが多いので今年も出会いを楽しみながら活動していきたい。



### 3. 引地川であそぼう【引地川・下福田子どもの水辺協議会：小西さん】

水辺協議会の設立のきっかけは引地川の護岸工事です。護岸を整備するなら昔のような自然植生護岸がいいという地域の声から始まりました。まず川を知るため学習会を行いました。また近隣の水辺の楽校に見学に行きました。たくさんの方から規約、設立の主旨の検討を行いました。主旨とは「近年、社会環境や自然環境の変化により、自然と遊ぶ場所やチャンスが少ない子どもたちのために安全で楽しい水辺空間をつくり出し、子どもたちがすこやかに成長するための環境づくりを進める。また引地川は私たちのふるさとの川と思えるように、川を上から眺めるだけでなく、実際に川に入り、水に触れ、川の楽しさやそれとあわせて自然の強さ、川の恐ろしさを知っていただく機会を子どもたちとつくりたい」ということです。平成15年3月18日に引地川・下福田子どもの水辺協議会が発足しました。5月から大人のワークショップ・子どものワークショップ5回を重ね、その中で水辺の基本方針と整備計画案を検討、決定しました。平成17年1月6日に国土交通省に登録を行い3月に水辺の楽校プロジェクトとして認定を受けました。組織としては地域の25の団体とこの活動に賛同していただける個人で組織しています。また市の水と緑課、教育委員会、河川管理者である相模原土木事務所の協力をいただいています。水辺の楽校の整備計画案のエリアとして福田12号橋から福田橋周辺が水辺の憩いの場として整備されます。ここが水辺の楽校の拠点となります。コンセプトとしては春の小川、草原をつくりたいと考えています。若宮橋から福田10号橋あたりまでを水辺の自然観察の場として整備しようとして計画しています。子どもたちが地域の方々と一緒に川に入って川に触れるという場所です。今回の引地川であそぼうという行事はここで開催される予定です。この2エリアを安全で快適な歩行空間として散策路でつなぐ予定です。水辺の楽校全体で850メートルのエリアで構成されています。

引地川であそぼうのイベントを行う地域は子

もが入っても危なくない膝下の水流でながれもゆるやかな安全な場所です。これまでは大和市子ども会連絡協議会南部ブロックが主催し当協議会は共催という形だったのが、今回は水辺協議会の主催で地域の5団体が協賛、大和市と相模原土木事務所の後援という形です。事業の目的は子どもたちと一緒に川の清掃、水生生物の観察、魚とり等を通して川の楽しさや恐ろしさを教え、伝えながら、命の大切さと環境への心遣いを伝えるということです。事業の内容は川に入る前に注意事項の説明、川のゴミ拾い、魚とりや水生生物の観察をし、水質検査も行い、ボランティアによる投網の投げ方教室を予定しています。効果としては①「川遊びの楽しさ」と「川の怖さ」を子どもたちに伝え、「自分の命は自分で守る」術を、川遊びをしながら教えることができる。②川に入ることによって自然を体感し、環境について考える機会を提供することができる。③昔の引地川を知っている方に引地川を語っていただく「場づくり」のきっかけにしたいということをおねがひしています。スケジュールとしては6月に企画会議をしチラシもできあがっています。来週から参加者の募集、7月16日に引地川の下見をし、22日に「引地川であそぼう」のイベント開催を予定しています。「引地川であそぼう」のイベントは今まで系統立てた記録がなかったので今回この補助金に応募し、これまでの記録をまとめた報告書を作成したいと考えています。できあがった報告書は数年後に建設される水辺の楽校のイベントの参考書にしたいと思っています。また地域の方が引地川をふるさとの川と思えるような理解を深めていく材料として活用したいと考えています。この報告書を地域と水辺協議会の財産として残したいです。8月下旬に報告書の企画会議をし、9月、10月をかけて編集し、11月の大和市環境立市フェアで披露したいと思います。水辺協議会はいつまでも地域の方と活動し、環境教育を通して引地川を守り育てていきたいと思っています。

## ●質疑応答

・活動の広がりについて聞きたい。引地川かわくだり実行委員会、羽黒トンボの会の方とは共催などしていないのか？（平塚）

→我々のエリアは下福田地区。かわくだりの方はもう少し上流のエリアだが同じ引地川の活動として協力して行っている。羽黒トンボの方とは直接の関係はない。下福田の水辺協議会は独自の協議会で地元の活動である。

・ミッション、実現性、今までの活動ともにすばらしい。報告書は環境立市フェアに出すということだが、その他の活用方法は？報告書を国土交通省などに持っていくことは考えているか？（渡辺）

→最終的な大きな目的は引地川に水辺の楽校をつくるということ。水辺の楽校の活動は下福田に引き継がれていくものなので報告書を足がかりとして、参考書として役立てていきたい。地域の方に理解いただくために活用したい。

国土交通省に持って行けるものなら持っていきたい。

・水辺の楽校ができるまで何年かこのイベントは続くのか？（手塚）

→川であそぼうというイベントはこれまで何年も続いてきたもの。これからは主催者となりずっと続けていく。

・参加者の年齢が学齢期の子どもが多いようだが、これから先はいろいろな視点で川を見るということでもっと広がると実現性が高まるのではないか。また水質検査をしているとのことだがデータを集積し、学術的なデータとしてできるだけネットワークを広げるとよい。記録をつくってここで区切りとするのはよいと思うので、ここから先もう少し広がりを持てるよう期待する。イベントの保険が5,000円だけというのが疑問。会員の活動保険もあったほうがよいのでは。（手塚）

→ありがとうございます。

・収入のところで自己資金および寄付となっているが内訳を知りたい。（益永）

→寄付金は地域の方でこの活動に賛同いただける方からの寄付。自己資金は昨年までの繰越金。これまではどういう水辺をつくるかということに力点が置かれていて、県のコンサルタントがついてワークショップをずっとやってきた。市子ども会連絡協議会が行ってきたものを今年度から我々の事業として行うということで活動資金をどう捻出するかはこれからの課題である。

・市としても引地川をきれいに保っていきたいと思っている。ぜひ子どもにつないでいってほしい活動である。今まで続けてきて年々きれいになっているのか？（坂内）

→最初は臭いもありヘドロもすごかったが今はだいぶきれいになっている。今まで見られなかった魚が生息している。



#### 4. ロハス (LOHAS) 推進事業【やまとケナフの会 : 長谷川さん】

やまとケナフの会は平成17年7月に設立し、ケナフの普及・提唱活動を行ってきました。環境に取り組み地域貢献することを目的に設立しています。ケナフだけではなく日常生活の中で身近な環境にも取り組んでいこうという気持ちからこの事業に応募しました。

ケナフはアオイ科の1年草で5月中旬に種まきをし8月中旬には4、5メートルに成長します。二酸化炭素を多く吸収し、非木材紙として紙の原料になるということで環境保全に役立つ、地球温暖化防止に役立つ植物といわれています。地球は温暖化が進み産業革命前と比べると現在地球の表面温度は0.6℃上昇しています。2016年には1.5℃、2028年には2℃を突破するということが地球のシミュレーションの計算結果として出ています。温暖化で発生するガスの量を今ゼロにした場合、その効果が現れるのは10年後といわれていますので、今から目標を持って取り組まねばならない。「ポイント・オブ・ノーリターン」これが2006年です。そのうえ①主要産油国23カ国のうち15カ国の石油産出量がピークに達し、今後減少傾向となる②地球の原油95%がすでに採掘されている③ストックのやりくりや、代替エネルギーの必要性を考えねばならないときに来ています。

ロハスとはLifestyles Of Health and Sustainabilityの頭文字をとった略で、「健康で持続可能な社会に配慮したライフスタイル」という意味です。ロハスなライフスタイルというのは自分や他人の身体に悪い影響を与えない、地球環境にとってマイナスにならないことを考え、消費や行動を選択していくことです。ロハスとこれまで言われてきたエコロジーとの違いは、環境保護のために我慢して生活するのではなくより環境負荷の少ないものを選んで自分自身も快適にすごそうとする姿勢にあります。私たちはロハス講習会を通してロハスなライフスタイルを推進し環境負荷を減らすことをミッションとしています。講習会によって大和にロハスのコミュニティーが形成されることを最終目標としています。ロハスは自分の健康だけを目指すのではなく、地球環境を気遣い、持続可能な社会や経済に貢献することが大きなテーマとなっています。ロハスはかなり広い範囲をカバーするコンセプトです。そのジャンル

としては、持続可能なライフスタイル、健康的なライフスタイル、自己開発、代替ヘルスケア、環境に配慮したライフスタイルという5つがあげられます。みなさんももうすでにロハスをやっているという方がほとんどだと思います。自分の生活にこういった考えを取り入れてさらに「こういうことをすれば環境にいい」とか「この企業は環境に悪い製品を作っているから買わないようにしよう」とかいろいろな場面で啓発され行動を起こしていくことが、結果的に環境負荷を減らすことにつながります。

スケジュールとしてはまずロハスの勉強会を行います。第1回目はケナフの会の中で、第2回目は市民活動センターに登録している団体に声をかけます。それぞれの団体の交流も目的となります。その後講師を招いて講習会を予定していますが、講師としてはロハスプロデューサーとして活躍している、いきいきロハスライフ代表者の井手敏和さんか環境カウンセラーと消費生活アドバイザーの大和田順子さんを考えています。資料に30万円と計上してあります講師料も含め検討します。300円から500円程度の参加費も考えています。その次に、ロハスに関するアンケートをもとにロハス交流会を開きコミュニティづくりを目指します。アンケートは講習会参加者、市民団体、企業、自治会などにも実施したい。コミュニティ形成として、市民レベル、草の根レベルで価値観の共有を図り、経済的、社会的レベルで商品開発や改革をうながし、ロハスの人・物・企業の紹介をして交流会を図り、ロハスのセミナーやイベントの紹介も行います。今後の活動としては①断続的なロハス講習会の開催と②市民団体・自治会などとコラボレーションを図ることを考えています。





## ●質疑応答

・大和ケナフの会独自の平成 18 年度の活動は？（平塚）

→18 年度は通常通りケナフを種まきから行き栽培する。他にサツマイモや身体によいとされるウコンも栽培している。11 月 23 日にケナフ祭りを予定しているが、子どもたちを呼んで芋掘りなどを行いケナフだけでなくいろいろな意味で交流を図り楽しむ。その他、出前講座ということでひまわり保育園に出向きケナフの種まきから紙漉<sup>すき</sup>までの一環指導を行う。

・それらの活動の中でロハスのどんなジャンルに特化していくのか（平塚）

→その辺は勉強会の中で見えてくるとよと思っている。身近な環境を考える中にケナフがあるということをやっている。そこからロハス的なものをどのようにやっていくかはこの 1 年で模索しながら活動する。ケナフの会はロハスの会になってしまうのかということではなくて、ケナフの会が発起人となって今後はロハス講習会をもっと広げて自治会や市民大学などで考え方を広め、環境負荷を減らしたい。そしてこの活動の最終目的としてはコミュニティづくりをして 1 つの団体をつくるか、あるいは WEB 上で発信できたらと考えている。

・スケジュールを見ると今年の主な活動は勉強会・講習会で、その先にコミュニティ形成を考えているのかと思うが、ロハスなライフスタイルというのは幅広いので、何か 1 つの実践的な運動があるといい。  
→ロハスのコンセプトは広いので例えばオーガニックや自然食品などを実践している方などをご紹介できたらいいと思う。

・ケナフを今まで扱ってきた先にロハスという考え方があるのか？ロハス的な考えの中にケナフがあったのか？ケナフとロハスの位置づけを聞きたい。協賛の見込みはあるのか？ケナフ以外にウコンとサツマイモというお話だったがそれらの植物の共通点は？（手塚）

→ロハスという考え方が日本に広まったのは 2002 年から、その前はスローライフ・スローフードということが言われていた。ケナフだけに固執すると活動が狭くなるので、もっと身近なことから環境に取り組みもうと考えていたところにロハスという概念が入ってきて共感したので、この考えを取り入れ、ケナフはロハスの中の 1 つという考えで活動している。協賛金についてはあてはないが、今まで関わってきた諸団体、企業に協賛を募ろうと考えている。ウコンとサツマイモについては、環境教育として未来を担う子どもたちに楽しんでイベントに参加してもらわなければならないということで、行っている。極力農薬を使わないことでロハスの 1 つの考え方であるオーガニックにもつながると思っている。

・平成 11 年度からケナフに関する活動をされているが、そのきっかけは？（益永）

→もともと国際ソロプチミストやまとという国際的な女性の奉仕団体の環境委員会に所属していたときにケナフを初めて知り、そのすばらしさを広めるため組織の中で同好会をつくろうと計画したが難しかったので、外部団体として提唱普及活動を行ってきた。

・今回のロハスについては勉強会、講習会と座学がメインだが、社会実験のようなことは考えているか？（益永）

→今年はある程度コミュニティ形成を目指しているので難しいかもしれないが、とっかかり的なイベントとしてアロマ教室や酵母パン作りなど考えていけたらよい。

・今までに市内の環境団体と何か関わりは持っているのか？（坂内）

→昨年、環境団体として関わりを持とうと市民活動センターに登録して、環境のティーパーティーのときに有志の中で何かできたらいいという話になり、それがきっかけで今回応募した。

## ■メッセージカード

選考委員と参加者から質問や応援のメッセージを書いてもらい、それに対して応募者が返答・解説しました。

### 1. パソコンボランティアからパソコン講師（インストラクター）へ！<sup>がい</sup>障害者（パソコン笑福会学習者）ステップアップ講習会のためのパソコン講師（インストラクター）・指導者養成講座

・（テキストの）著作権についてもう少し研究、検討した方が良いのでは？法律的に。

（応募者）著作権のこと、原稿料、講師料のことはこれからもっと勉強したい。

・良い活動だと思いますが、プログラムは決まったものがありますか？講師の方がまだ決まっていないのに、障害者の方々に応じたプログラムというものが組み込んでいるテキストなのでしょうか？

（応募者）今回の養成講座はパソコンボランティアのスキルを上げるための講座で、<sup>がい</sup>障害者の方のためのもは後半第3期のところで<sup>がい</sup>障害特性に応じた支援の仕方の講座でオリジナルのテキストを使用する。

・大和市の補助金だけではとうていできない事業ということであるから、具体性に欠けると思う。補助金だけの計画に練り直すべき。

（応募者）メンバーもスタッフも本年度はこの計画で実行していきたいと思っている。

・スキルアップには費用のかかることと思いますが、無償の部分があることが真の市民活動と思います。営利事業と思います。ボランティアの気持ちのなさが目立つ。

（応募者）運営にかかる事務スタッフと当日の補助員の人件費は別途とし、無償分の積算内訳も抜けていたのでそういった誤解を受けたのではないかとと思う。

・外部講師、原稿料が必要なテキスト使用とのことですが、これで民事業の活動主体と言えるでしょうか。今年の活動に限って言えば、イベント屋にしか見えませんが……。

・講習会の講師については、一部内諾を得ており、その他についても目途がついていると思いますが……。

・地域で日本語学習のボランティアをつづけてきた経験からボランティアの養成スキルアップは、活動を広げていく上で必須のことだと思います。この養成講座が、さらなる活動の発展に向けての「一歩」となることを期待しています。プレゼンはわかりやすく、事業の目的は明確でした。が、選考委員の質問が収支のことに集中し、活動の意識と展望についての質問が少なかったことがとても残念です。

・毎週土曜日に自立センターでパソコン教室のピコピコに通って楽しみながら習っていますが、今日の講話を聞いてみてとても社会参加のために勉強になりました。

・本事業のポイントとしてコミュニティづくりの中で活動を進め、指導者養成はその過程で勧めることで、まずは障害者へ関わり、ファンを広げニーズを掘り起こすことから次の手を考えても遅くはないと思う。

## 2. 「食事が楽しくなる Recipe 集 2」

・小学生の学力低下の一つに朝食の欠食が原因といわれており、講習会も特定の人だけではなく、学校、PTA、子ども達の顔を見てのレシピ紹介も教えていただきたい。

・「食のアトリエ」メンバーの一部が非公開なのはなぜか。

・ホームページを使ってレシピの公開、講習会の案内などを行うと、より効果的になるかと思えます。

・市民税を使って作った、はいおしまい、になるかもしれない「やまと子どもプラン」。このなかに食育の推進が明記されています。どうするのか、ここに関与して、実質的な手応えのあるアクションを重ねてほしいと思います。

・都市型農業が成功していないといいますが、都市型農業をどうとらえていますか？レシピ集2000部印刷とのことですが、配布先は？印刷単価@78円ですが、資料添付されているレシピ集を見る限り、不当に高いと思います。

・レシピづくりの段階でおらず、ぜひ協働事業へもってきてほしい。

・一般的ないわゆるレシピ集は不要だと思います。とにかく「大和市」の食の環境を徹底して調査して、ひそんでいる社会資源になる農の状況をパブリックにするアクションを希望します。

(応募者) 今回の応募でメンバー公開をしてもよいか確認をとったところ、1名だけ連絡が取れない人がいたので、その方だけ非公開とした。

(応募者) 食育について政府や県はがんばっているが、市はガイドラインを作成するだけとやる気のない態度なので、もし私たちが一端を担えてみなさんに知ってほしいことを伝えられるようになればうれしい。

(応募者) 都市型農業については3月に農政課の講演会を聞き、講師の方に都市型農業の成功例を尋ねたところ、愛知の長久手というところが市民・行政参加で進めているということだった。レシピ配布先は先ほど説明したとおり。単価については、レシピ集1は手作り。今回は大和市の食育ガイドにもなるようなものにしたいということで、業者に頼みたい。

### 3. 引地川であそぼう

・補助金希望額10万、報告書作成費10万なので補助金による事業内容は「川であそぼう」ではなく「報告書作成」なのでは？

(応募者) 今回は記録を残すための報告書づくりなので助成金は報告書だけに使い、イベントは参加費や協賛金でまかなう。

・事業の進め方に感心しました。できたら、子どもたちの体験発表の機会を入れるともっと楽しくなると思います。

(応募者) 検討してぜひ取り入れたい。

・相模原市の境川斜面緑地を守る会の経験と実績はなかなかのものです。ぜひ、リンクして神奈川や大和の川を本来の「川」にするために川ネットをつくられて動いてほしい。

(応募者) 境川斜面緑地を守る会のことは知らなかったので勉強して検討したい。

・報告書というのは、自己満足としか思えない。一般の人がもらっても興味のある人しかいないのでは。

(応募者) 水辺協議会の活動は地域ぐるみで行っている。報告書をもって困る人はいないと思うので自信を持って作成し、末永く引き継いでいきたい。



応募者の熱心な説明に耳を傾けながら、応援メッセージをポストイットに書いてボードに貼る参加者

#### 4. ロハス (LOHAS) 推進事業

・ロハスは、生きていることすべてに係わります。活動を絞ってつなげた方が市民に啓発できるのではと思います。

(応募者) わかりやすくロハス活動を提唱していきたいと思う。

・ぜひ大和市の環境保全団体のネットづくり、コーディネーター役を担ってほしい。地球温暖化防止に役立つ多様な行動をたばねるアクション。

・ロハスはもう遅いスタートと思います。

(応募者) ロハス的な考え方をコンセプトとして大事にしていきたい。

・市民活動団体(環境関連)のコミュニティを拡げていくきっかけとして頑張してほしい。

・昨年行ったようなケナフ栽培等、実地の活動は今年はないのですか? 講習会講師料が30万、補助金20万ですが、収支から事業を見る限り、講習会というイッパツ屋的イベント事業に見えます。ホームページの事務局と思っています。

(応募者) 今年も例年通り栽培も出前講座も行う。講師料については試算だが検討したい。コミュニティづくりということで今後もがんばってきたい。

・大和市が目立っていない点をのばすのは難しいでしょうが、がんばって。

・出発点がいささか曖昧な気はしますが、活動次第で能動的に環境問題に取り組めない人にもある意味での環境保全活動にかかわる。環境に負荷の少ないものを選んで生活するという機会を提供するきっかけになるのではと思います。



ケナフはアオイ科の1年草。  
製紙や布作りなどに使われます。

## ■選考委員の投票

	平塚委員	渡辺委員	手塚委員	益永委員	坂内委員
1. パソコンボランティア	○		○	○	○
2. 食事が楽しくなる	○	○	○	○	○
3. 引地川であそぼう	○	○	○	○	○
4. ロハス推進事業	○	○			○

\* 4事業とも3票以上の投票がありましたので補助対象となりました。

## ■選考委員のアドバイス（矢印以下太字はアドバイスに対する応募者の回答です）

### 1. パソコンボランティア

- ・テキスト制作費 80,000 円とその著作権が気になりますが、インストラクター養成の必要性は理解できる。
- ・現場の声を反映し、大和市との協働事業につなげるような報告書の作成を望みます。
- ・障害者向の I T 関連支援は重要な事業と思います。
- ・来年度以降の事業体制の見通しを計画して下さい。

→ 80,000 円というのは後半の 2 番(パソコン講師(インストラクター)養成講座(活用・指導力スキル))と 3 番(障<sup>がい</sup>碍特性に応じた講師 (インストラクター) 養成講座 (支援技術能力)) の講座に関する算出で、それは著作から譲り受けるという形で、今後ピコピコが自由に使ってボランティアの育成講座に使うということで原稿料を支払うという取り決めになっている。

### 2. 「食事が楽しくなる Recipe 集 2」

- ・団体独自の収入確保に努力してほしい。
- 料理会は実費で採算が取れるようにしている。メンバーの交通費ぐらいいは出せるよう努力していきたい。

### 3. 引地川であそぼう

- ・ぜひ年齢層の拡大を望みます。保険料の見直し。
  - ・保険料 5,000 円とちらしに書かれていた。参加費の整合性が気になった。
- 年齢層については、水辺の楽校は子どもからお年寄りまでを念頭に置いている。憩いの水辺はお年寄りが車いすで降りられるスロープ・手すりをつける。引地川であそぼうのイベントは子どもを対象にしているが、父親の参加も増えている。子どもをだしに大人にも楽しんでもらいたいというのがイベントのねらいでもある。引地川とのつきあい方を地域の人に広く知ってもらいたいと思っている。

### 4. ロハス (LOHAS) 推進事業

- ・ロハスなライフスタイルの実践項目にしたらかどうかと思う提案として「マイバック運動」があります。大和市では 7 月からゴミが有料になり、その他のプラスチックゴミの出し方に「レジ袋も可能」となっていてがくぜんとしました。私はマイバックを推奨していますが、たとえばこういうところから実践項目として取り組んだらどうでしょう？ロハスなライフスタイルがどういうものが具体的にわかるとは思いますが。一例として考えてもらえたらとの思いです。
- ・ロハス的なコンセプトは勉強会、講習会と平行に身近な実践を行っていかねば現況の意識は変わらないのではないか。

→ロハスの身近で具体的な実践としてマイバッグ・マイ箸・風呂敷の活用などから実際に取り組んでいきたい。最終的な目標はコミュニティづくりで、環境負荷を減らす精神を持った人々を増やそうというのが目的なので、そのような情報を発信できる場所をつくりたい。

## ■補助金額の確認

事業1は20万円、事業2は16万円、事業3は10万円、事業4は20万円、合計66万円の補助金が交付される予定です。

8月中旬に補助金の交付決定がされます。事業の中間報告と選考委員による事業の見守りがあるので日程が決まり次第事務局にお知らせください。選考委員、事務局、応募者、今日参加されているみなさんでこの事業がうまく進むよう力と知恵を出し合っていきたいと思います。来年4月に事業報告会が公開で行われますので活動報告をお願いいたします。

## ■応募者の感想

### 1. ピコピコ

1つ投票いただけなかったのが心残りですが、質問の内容・ご意見をメンバーと話し合いながら活動を推進していきたいと思っています。前年はめばえの助成金をいただき活動は2人からスタートしました。会則等も活動しながら決めるというように1年が過ぎてしまいましたが、メンバーや会員が増えてきたのもっと役割分担・組織化を図り、内容も充実させ、勉強もしながら委員の方や市民活動課の方、活動センターの方にわからないことはご相談し、活動を暖めて大きくしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

#### 【渡辺委員】

投票しなかった理由は、実績報告書の収支と、予算立てと申請書が合わないところがありましたので、1年間活動を見守る形をとりたいたと思います。公金を使うということで収支には厳しくチェックしたいと思っています。



### 2. 食のアトリエ

今後の活動の展開について応援メッセージの1つを読みたいと思います。「一般的ないわゆるレシピ集は不要だと思います。とにかく『大和市』の食の環境を徹底して調査して、ひそんでいる社会資源になる農の状況をパブリックにするアクションを希望します。」重たい言葉ですがこれに沿う形でがんばっていききたいと思います。活動が続くように資金確保の面も考えていきたいです。よろしくお願いいたします。



### 3. 水辺協議会

さっそく編集に取りかかりたいと思います。報告書ができましたら活用し、一人でも多くの方に「引地川は私たちのふるさとと川」という想いを広めていきたいと思っています。やがては藤沢の方とも同じ川の流域として一緒に活動していけたらと思いますので、それにも役立てていきたいです。



### 4. ケナフの会

警告をいただきましたが、励ましの応援と受け止めています。講師料の金額を見直して講習会の他に具体的な活動もやっていけるよう努力します。よろしくお願いいたします。

## ■平塚委員長より総評

### 1. パソコンボランティアについて

活動の基本は事務的な部分を明確にし、誰にでもわかる収支報告が必要だということで、めばえではなくはぐくみの助成でもありますので、このような結果となりました。指導者育成の重要性はわかりますがそれが身内的なものではなく一般的なライセンスになればいいと思います。

### 2. 「食事が楽しくなるRecipe集2について」

協働事業になっていかれるようがんばっていただきたいと思っています。

### 3. 引地川であそぼう

環境立市フェアのときにまとめができるということで楽しみにしています。子どもの体験が引き継がれていくようなものにしてほしいと思っています。

### 4. ロハス推進事業について

活動が広すぎて伝わりにくいところがあり、非日常的な面ばかりがクローズアップされているように感じていましたが、ケナフからロハスへ、そしてコミュニティをつかっていきたいということでしたので投票しました。より具体的な日常生活の中で無意識のうちにロハス的な生活が繰り広げられていければいいと思います。



## ■ご意見カードから

・公開プレゼンテーションの場で委員からの意見が中心だった重みに補助金があることを認識しました。補助金を有効活用するために勤めます。ありがとうございました。

・応募して感じたこと。しっかり審査選考して頂いていると感じました。期待に応えるべく、できるだけ頑張りたい。ありがとうございました。

・提案がわずか4点というのはサビシイ。たくさんの提案から協働事業への芽を見つけ、育てる。その裾野の広がり待ちの姿勢ではなく、具体的に手を打っていくことを市民活動課スタッフ、協働事業推進会議委員、大和市市民活動センター、運営委員、事務局スタッフが新しい公共の糧を意識して持続的に行動を重ねたい。社会資源を見いだしていくアクション。

・知人が発表するということで、今日参加しましたが、そもそも、助成が事業に必要な経費の1/2以内という規定があるのが疑問です。この助成金だけではあるいは、これが駄目になっては事業そのものが成り立たなくなる可能性もあるわけで、そんな不安定さを抱えていては、全く「市民活動の推進」にはならないのではないのでしょうか。申請書作成に追われて、本来の活動の時間がなくなってしまっているのかもしれないと思えば気の毒です。それにしても、「20万円」は安すぎる！これじゃあ何もできないです。

・事業名と補助金と用途が一致するような提案（申請書）をしてもらう必要があるのでは。人を呼んできたり、物を作っておしまいという事業に補助金が必要か？

・「引地川であそぼう」事業は、報告書作成事業ではないか？事業の内容が違うのであるから改めるべき。

平成 18 年度市民活動推進補助金公開選考会

主催：大和市市民活動推進補助金選考委員会

ニュース製作・発行：大和市・NPO 法人玉川まちづくりハウス

問合せ先

大和市役所市民活動課（大和市市民活動推進補助金選考委員会事務局）

電話：046-260-5103

FAX：046-260-5138

E-mail：katudo@city.yamato.lg.jp

URL：http://www.city.yamato.lg.jp/katudo/kikin/kikin-top.html